

2021 年度 花園大学文学部

日本文学科案内



国立国会図書館蔵『竹取物語（絵巻）』（かぐや姫の昇天）

花園大学文学部日本文学科

1. 日本文学科の構成

日本文学科には、〈日本文学コース〉と〈書道コース〉の2つのコース(専攻)があります。コースに分かれて講義が始まるのは、2回生の4月からです。

(コース決定後は、原則として変更できませんので、よく考えて選択して下さい)

なおコースに関係なく、研究するためにはPC(パソコン)の活用は不可欠の手段となっています。スマートフォンは便利ですが、大学での研究(レポートや卒業論文の作成など)や卒業後の社会生活(会社等での事務処理など)においては、それだけでは役に立ちません。在学中に必ず、PCの基本的な技術と知識を身に付けておいて下さい。

【日本文学コース(日本文学・現代文化・日本語学)】

「日本文学(古代～近現代)」、「現代文化」、「日本語学」を学ぶコースです。「日本文学」では、古典や近現代の文学作品を、資料や文献を使って、正確に読んで解釈し、その意義や文学史的な位置付けなどを考えます。「現代文化」では、マンガやライトノベル等を対象として、その歴史や現代社会におけるあり方などを分析します。また言葉の問題を扱う「日本語学」では、文献や実例を通して、言葉の歴史と展開を研究します。

【書道コース】

「書」は、東洋を代表する文化の一つであり、「文字を書く」ことの中に美を見出だそうとする営みです。日本文学科の中のコースですから、単に書道技術の習得だけを目指すのではなく、日本文学の基礎を修め、その上で書道技術を鍛錬し、書の歴史、理論を学びます。4年間研鑽を重ね、卒業時には、総決算として「卒業制作」を作成し、学外で展覧会を開催しています。

2. オフィス・アワー

「オフィス・アワー」とは、学生が気軽に教員の研究室を訪問して、いろいろな話や相談をする時間のことです。訪ねてみると、教室でのイメージとは違う、先生方の別の一面を必ずや発見できることでしょう。あなたも、気軽に研究室を訪問してみませんか？

〈日本文学コース〉

曾根誠一 教授(栽松館 604) 古代文学 火曜日 15:00～17:00

神田邦彦 専任講師(栽松館 606) 中世文学 木曜日 13:00～14:30

高橋啓太 准教授(栽松館 603) 近現代文学 木曜日 13:00～14:30

秦美香子 教授(栽松館 607) 現代文化 火曜日 13:00～14:30

橋本行洋 教授(栽松館 403) 日本語学 金曜日 16:20～17:20

〈書道コース〉

下野健児 教授(直心館 206) 書道 金曜日 18:00～19:30



3. クラス・アドバイザー

「クラス・アドバイザー」とは、皆さんが学生生活を送る上で、何か困ったこと（授業や進路、人間関係など、何でもかまいません）が起こった時、相談に乗る教員のことです。

クラス・アドバイザー担当教員については、別途通知します。

4. 「基礎講読」

1回生科目の「基礎講読」は4科目（各半期 [=セメスター]）ありますが、2回生終了時点で、2科目以上の単位を取得できていないと、3回生で「演習A」（卒業論文・卒業制作に直結する科目）が履修できません。注意してください。

5. 「日本文学総合Ⅰ・Ⅱ」

「日本文学総合Ⅰ」（2回生配当科目）は、基礎的学力の充実をはかる科目です。教員志望の学生も、一般企業への就職をめざす学生も、ぜひ履修してください。（※2021年度は休講）

「日本文学総合Ⅱ」（3回生配当科目）は、教員採用試験対策のための科目です。教員採用試験合格をめざして学力の充実と発展を期し、学力の再確認をします。教員志望の学生は、ぜひ履修してください。（月曜日5時間目：三宅えり講師）

6. 「京都学講座」

京都を見つめ直し、すばらしさを再発見するために、文学部の独自講座として「京都学講座」が開設されています。卒業するための単位にも認められる24単位を履修すると、卒業時に、「京都学課程」の修了証がもらえます。日本文学科が提供しているのは、次の科目です。

「京都学研究Ⅲ」（月曜日4時間目：前期・八島由香講師／後期・三宅えり講師）



（国立国会図書館蔵『大江山酒呑童子絵巻物』）

7. 共同研究室紹介

日本文学科には、「日本文学共同研究室」、および「書道共同研究室」の二つの共同研究室があります。専攻するコースとは関係なく、自由に利用できますので、どのような本や資料が置いてあるのか、場所と雰囲気を確認しがてら、是非一度訪ねてみてください。

A. 「日本文学共同研究室」の利用案内

【場所】裁松館(さいしょうかん) 6階611号室(内線611)

【開室日・時間】月・火・水・金曜日12時～17時 *火曜日は、前期閉室

※開室は、講義開講期間と試験期間中のみ(休暇期間は閉室)。詳細は、研究室入口に掲示。

なお、閉室中でも教員に申し出れば、利用することができます。

【概要】

- ① 日本文学共同研究室は、日本文学科の学生であれば、コースにかかわらず、誰でも自由に利用できます。各種の辞書・辞典や索引、古典文学の叢書(テキスト)、近現代文学の全集、雑誌など、基本的な資料しか置いてありませんが、レポート作成のための準備や調査などに、HUMIC(図書館)とともに、活用してください。

なお、研究室内での、喫煙・飲食・携帯電話の使用は禁止されています。

- ② 日本文学共同研究室で、最も利用価値の高い資料は、網羅的に収集している他大学の日本文学会等発行の雑誌です。所蔵雑誌の詳細については『保管雑誌目録』(年刊)をご覧ください。
- ③ 日本文学共同研究室で、最も学問的価値の高い資料は、江戸時代の写本・版本を中心とした「土岐武治文庫」約300点です。故土岐武治先生は、本学名誉教授であり、ご遺族の英断で、当時の国文学科に寄贈されました。『土岐武治文庫和書目録』(2001年10月刊)があります。
- ④ 日本文学共同研究室にあるパソコン(2台)の利用を希望する場合は、室員に申し出て、「コンピュータ利用者ノート」に必要な事項を記入の上、利用してください。
希望者が重複した場合と、教員・室員が緊急の公務で使用する必要が生じた時は、利用の制限をする場合があります。室員の指示に従ってください。
- ⑤ 日本文学共同研究室にある、ハサミ・糊・ホチキス・カッター・穴開け機などの文具類と備品は、自由に利用することができますが、使用後の後片付けは責任を持って行ってください。なお、室員の机と「隣の棚」にある物品には、絶対に手を触れないでください。



B. 「書道共同研究室」の利用案内

【場所】直心館(じきしんかん) 2階204号室(内線397)

【開室日・時間】 月・金曜日10時～18時

※他の曜日でも教員が開室する場合がありますが、利用に関しては、下記の案内に従ってください。その場合、開室している教員の指示に従ってください。

【概要】

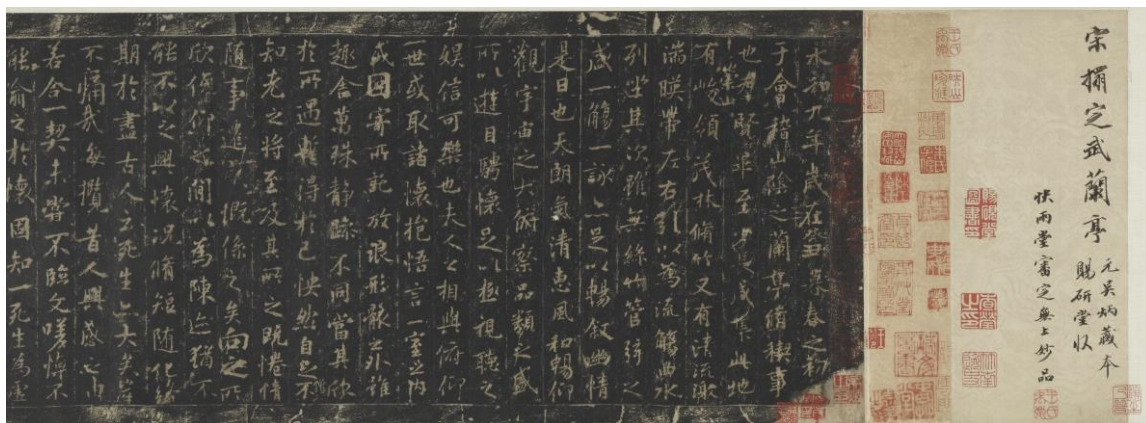
書道共同研究室は、コースにかかわらず、誰でも自由に利用できます。書道に関する各種の辞書・辞典や作品図録、各種技法書など、基本的な資料が置いてあります。

臨書や創作のために、古典作品の図版を確認したい時、レポート作成のための準備、講読や演習の準備などに、ヒューミック(HUMIC=図書館)とともに活用してください。

なお、研究室内での、喫煙・飲食・携帯電話の使用は禁止されています。

【利用上の注意】

- ① 開架されている図書などの資料は、書道共同研究室内で自由に利用してください。
- ② 書道共同研究所蔵の図書、資料の貸し出しはしていません。資料のコピーを希望する場合は、室員に申し出て、「図書一時持ち出しノート」(室員の机上)に必要な事項を記入し、学内でコピーして、すぐに返却してください。
なお、研究室内のコピー機は、教員が授業に使うための資料専用です。直心館1階にあるコイン投入式のコピー機を利用してください。
- ③ 書道共同研究室内にあるパソコン(2台)の利用を希望する場合には、室員に申し出てください。ただし、教員・室員が緊急の公務で使用する必要が生じた時は、利用の制限をする場合があります。教員・室員の指示に従ってください。
- ④ 書道共同研究室には、書道コースの学生が使用できるデジタルビデオ、35ミリカメラがあります。利用を希望する場合は、室員に申し出て、使用ノートに必要な事項を記入のうえ、使用してください。



(東京国立博物館蔵『定武蘭亭序(吳炳本)』)



8. 教員の自己紹介

【日本文学コース】



曾根 誠一(そね せいいち)教授

中古(平安時代)文学担当。最近は、『竹取物語』の古活字版や奈良絵本・絵巻の絵の構図の調査を主として活動中。出身は、相模国厚木。写本・版本・短冊・切手など、これまでに収集したものを整理し、充実させるのが、当面の趣味。学生の皆さんに是非してほしいのは、読書と、藤原道長や紫式部も暮らした「古都」の散歩。JR 二条駅辺りから北が「大内裏」であった平安京を、歩き尽くしてください。

オフィス・アワーは、火曜日 15 時～17 時。お茶でも飲みましょう。



神田 邦彦(かんだ くにひこ)専任講師

中世文学、説話文学を研究しています。とくに最近、鴨長明の『方丈記』や『発心集』の研究を楽しんでいます。鴨長明という人は、とても个性的で、人と協調できず、いつも何かをやらかしてしまう、そんなそばで見ている分にはとても面白い人です。その文学も个性的で面白いものです。みなさんと一緒にそんな人と文学を勉強できたらと思います。

また、中世という時代は、楽書(雅楽に関する文献)が多く書かれた時代でもあり、日本の音楽史(古代・中世の雅楽史)も私の研究テーマです。文学だけでなく、音楽についても学んでいくと、視野が広がり、思いがけない発見があります。そんな楽しみを共有できたらと思っています。

オフィス・アワーは、木曜日 13 時～14 時 30 分です。



高橋 啓太(たかはし けいた)准教授 学科主任・コース主任

近代文学担当。日本の戦争小説がこれまでどのように読まれてきたのかを検証することが最近の研究テーマです。日本文学科に入ったからには文学に触れてください。授業を通して文学に関する知識や理論を身につけることは必要ですが、読書の蓄積がなければそれらを活かすことはできません。文学作品を自ら読むことが、この学科での学びの基本です。

オフィス・アワーは、木曜日 13 時～14 時 30 分です。





秦 美香子(はた みかこ)教授

現代文化担当。最近マンガの舞台化に注目しており、表現や文化規範は翻案によってどう変更されるかを研究しています。授業でもマンガやエンタテインメント小説などの娯楽的表現を主に扱います。ところで、大学生活に絶対必要な「持ち物」は何か、わかりますか。答えは、問題意識と読書習慣です。いつも忘れず、持っていてください。

オフィス・アワーは、火曜日 13 時～14 時 30 分です。



橋本 行洋(はしもと ゆきひろ)教授

日本語学担当。日本語語彙の歴史、現代語の日本語史上への位置づけを中心とする研究を行っています。我々の使っている「日本語」がどのような歴史をたどって現在の姿になったのか、ということが知りたくて調査・分析を続ける日々です。高校時代、「文法」が嫌いだった人は少なくないと思いますが、私もその一人でした。でも、ことばの世界はもっと広く、深く、そして興味の尽きないものだったのです。

オフィス・アワーは、木曜日 13 時 00 分～14 時 30 分です。

【書道コース】



下野 健児(しもの けんじ)教授 コース主任

書道史・書道理論担当。日本文学コースへ進まれる皆様とは、講義などで直接お会いする機会は少ないと思います。専門は中国の書の歴史ですが、映画(中国、香港、台湾)、中国音楽(古典から最新ポップス)から中国料理、中国茶までを(広く浅く)守備範囲としています。学内ではいつも中国服?を着ていますので、気軽に声をかけて下さい。

オフィス・アワーは、金曜日 18 時～19 時 30 分です。



日比野 実(ひびの みのる)教授

書道コースでは、教員や先賢からさまざまな書が提示され、そのつど新たな発見を得ることが出来る。まずは貪欲に何でも見てみよう、何でも書いてみようという心意気を持ってもらいたい。わたくしは「かな」書の作家でもあるけれど、書の世界の知りうることは、すべてお教えするつもり。ただ、「書道が好き」というだけではよい作品は作れない。いくつもの険しい山を乗り越えないとならない世界だということをお自覚してほしい。



森田 彦七(もりた ひこしち)教授

書道科教育法 漢字担当。書の教育法には三つの重要な柱があります。まず一つ目は書の良否を見分ける鑑賞眼をつけることです。二つ目は高度な技術を養うことです。三つ目は書全般にわたる知識や理解、書に対する見識などが必要です。これから書を専門として望んでいくわけですが目標を誤ると努力が無駄になってしまいます。『何がどうして良いのか』と言う事を分かった上で、効果的な書の学習にしたいものです。結びに大学で学べる環境を大切にして何事にも感謝の気持ちを忘れないようにして大学生活を過ごしてほしいと願っています。



日比野 尚(ひびの ひさし)[光鳳]客員教授

「かな」担当。京都は日本語の文字が生まれたところです。私はこの京都に生まれ育ち、その日本固有のかな書を中心に制作を行っています。本当の意味で「日本の書」とはどのようなものなのか。なぜ、なかなか満足する作品が書けないのかと、自問自答・試行錯誤の毎日です。



真神 仁宏(まがみ にんこう)[巍堂]客員教授

「芸術は偽りのない自己の表現である」と言います。しかし、いかに天賦の才を持っていたとしても、それを的確に表現できる技術を持ち合わさなければ何の意味もありません。近代書芸術の魁・玉鐸は一日は臨書に、次の日は創作にあて、その書作態度は終生変わることがなかったと言います。また私の師は「作家である前に職人たれ」と言うのが口癖でありました。いかなる大芸術家も、地道な基礎の鍛錬の積み重ねの末に実を結んだことを忘れないでください。



花園大学文学部日本文学科編
2021年4月1日発行